

開花期以降は水不足に要注意！ うね間かん水をしましょう！

7月21日頃に近畿地方の梅雨明けが発表されて以降、降雨が少なく高温の日が続いています。また、今後も高温・少雨の傾向が続くと予想されています。

6月中下旬播種の「ことゆたか A1 号」では、開花期を迎えています。大豆は開花期～登熟期に多くの水を必要とし、水は子実肥大期まで必要です。開花期以降の水不足は、落花や落莢、青立ちの原因にもなりますので、うね間かん水を行いましょう。

【うね間かん水のポイント】

●実施時期 **開花期～子実肥大期(9月中旬)**

●実施の目安

**雨の降らない日が7日以上続く または
日中に大豆の葉が裏返って白く見える**



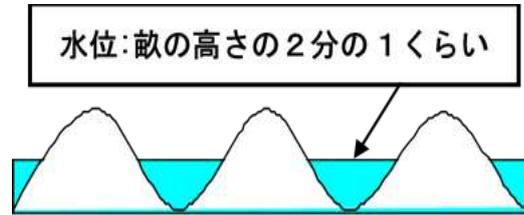
←水分不足で葉が裏返っているほ場。
全体的に白っぽく見えます。
日中に葉の反転が50%以上見られる場合は、早急にかん水が必要です。

●入水量の目安

- ・中耕培土栽培 → **うねの高さの2分の1程度まで**



畝間かん水の様子



- ・密播栽培 → **明渠の肩程度まで(明渠通水)**
- ・大豆の生育が遅い場合 → **明渠から水があふれない程度(明渠通水)**



明渠通水の様子

大豆の葉がほ場を覆っていない状態で通水すると雑草が繁茂しやすくなるため、注意が必要です。通水する場合は明渠部分だけを使いほ場内に水を通します。水位は明渠の肩までとします。

●うね間かん水の終わり方

ほ場全体まで水が行き渡り次第、直ちに水尻の板を外して排水しましょう。長時間のうね間かん水は、かえって大豆に悪影響を与えます。

●水路の用水が少ない場合は・・・

一度に実施するほ場を分けながら、数日にかけて徐々に入水してください。